



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和5年7月12日(水)

兵庫県立八鹿高等学校

校長 山本 宏治

4

令和5年7月5日(水)表彰伝達式での話を少し整理しなおして掲載します。

学校をひとつの建物、例えば今私たちが集まっているこの体育館に、たとえてみましょう。皆さんから見て正面中央に、最も高いところを支えている柱があります。さて、この柱は、体育館の最も低いところを支えている柱よりも重要な柱なのでしょうか?低いところを支える柱は重要ではないのでしょうか?そうではありません。

長さや太さ、支える位置はさまざまでも、すべて等しく大切な柱です。高いところを支える柱も、低いところを支える柱も、「なくてもよい」柱など一本もありません。すべての柱が、水平・垂直を問わず、自分の手の届くところまでせいっぱい腕を伸ばして、この建物を支えてくれているのです。

低いところを支えている柱の一本が、「もういいや」とあきらめて手を離せば、屋根は傾きます。一番高いところを支えている柱も、すべての柱が精一杯腕を伸ばしているからこそ、一番高いところを支え続けることができるわけです。

先生方は、柱が立つ土台の土がくずれたりしないか、いつもみなさんのそばで土を盛り、固める作業をしてくださっています。柱の一本が、疲れた…と言えば、しばらく替わりに屋根を持ってくださって、「疲れたら休んだらいいよ。でも休みっぱなしはよくないよね。気力体力が戻ったらまたしっかり屋根を支えてね。」と、背中を押してくれる。

生徒の皆さんは、勉強でも、スポーツでも、文化活動でも、なんでもかまいませんから、自分の手の届く最も高いところを支えよう、という気持ちで、全員が頑張ることで、お互いに高め合うことができるわけですし、最も高いところを支えてくれている柱は、もっと高いところにも手を伸ばすことができる。

学校とはそういう場所だと思います。

全校生徒一人ひとりが、皆、大切な柱です。表彰を受けた人も、そうでない人も、皆が自分の手の届く最も高いところをめざして頑張っている。それが八高です。このことを忘れないで今後の学校生活を送ってください。頑張れ、自慢の八高生たち!

【補足】世の中には次のような言葉もありますね。

- ・但馬や県、近畿、日本、世界の記録は、もちろんすばらしい。でも、まずはあなたの自己ベストが、なによりすばらしい。
- ・山は高さを競わないけれど、それぞれに頂がある。